

<p style="text-align: center;"><b>ドイツ文化論</b> ( German Culture I ) { Deutsche Kultur I }</p>	<p style="text-align: center;"><b>1年・前期・2単位・選択必修</b> <b>3専攻共通・担当 桐川 修</b></p>	
	<p style="text-align: center;">〔システム創成工学教育プログラム 学習・教育目標〕</p> <p style="text-align: center;">A - 1 (70%)、C - 2 (30%)</p>	<p style="text-align: center;">〔JABEE 基準〕</p> <p style="text-align: center;">a, f</p>
<p>〔講義の目的〕</p> <p>EU ( European Union, Europäische Union, Union européenne, 欧州連合)を構成する27カ国のうち、ドイツは人口においても、また経済の面でも最大の地位を占めています。明治以来、日本はドイツ(プロイセン)を手本として急速な工業化の道を歩み始め、今日の近代的な日本国家を築き上げました。ちなみに今年は日独交流が始まって150周年目にあたり、両国でさまざまなイベントが計画されています。今年度の「ドイツ文化論」では、いくつかの文化的側面から現代のドイツと日本とを比較することによって、ドイツ文化に対する理解を深めたいと思います。</p>		
<p>〔講義の概要〕</p> <p>現代ドイツにおけるスポーツ(とくにサッカー)、自動車、食文化を取り上げ、日本との比較の上で際立った事柄を調査し、考察を加えます。受講生は数名のグループにわかれ、それぞれのグループで指定されたテーマの調査・検討をおこないます。その際、インターネットは有力な情報源となるでしょう。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕</p> <p>各自の主體的取り組みがを重視します。提出物だけでなく、取り組みの姿勢についても評価します。また基本的にドイツ語の知識は前提とはしていません。</p>		
<p>〔到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代ドイツの実情を理解すること。</li> <li>・現代のドイツと日本の文化的相違点を理解すること。</li> </ul>		
<p>〔評価方法〕</p> <p>提出物(50%)、取り組みの姿勢(50%)</p>		
<p>〔教科書〕</p> <p>〔補助教材・参考書〕</p> <p>教科書は使用しません。 参考文献および参考となるホームページなどについてはその都度授業中に指示します。</p>		
<p>〔関連科目・学習指針〕</p> <p>日頃よりドイツだけでなくヨーロッパ文化全般に興味をもって欲しい。 もちろん、後期開講の『ドイツ文化論』とは大いに関連があります。</p>		

## 講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己 評価*
第1週	ガイダンス	講義の目的・概要等を説明し、半年間の予定を説明する。	
第2週	ドイツのスポーツ(1)	ドイツのスポーツ事情について情報を収集する。	
第3週	ドイツのスポーツ(2)	収集した情報を検討する。	
第4週	ドイツのスポーツ(3)	各テーマについて報告をまとめる。	
第5週	ドイツのスポーツ(4)	各グループごとに報告を発表する。	
第6週	ドイツの自動車(1)	ドイツの自動車事情について情報を収集する。	
第7週	ドイツの自動車(2)	収集した情報を検討する。	
第8週	ドイツの自動車(3)	各テーマについて報告をまとめる。	
第9週	ドイツの自動車(4)	各グループごとに報告を発表する。	
第10週	ドイツの食文化(1)	ドイツの食文化について情報を収集する。	
第11週	ドイツの食文化(2)	収集した情報を検討する。	
第12週	ドイツの食文化(3)	各テーマについて報告をまとめる。	
第13週	ドイツの食文化(4)	各グループごとに報告を発表する。	
第14週	比較	3つの文化事情に関して比較する。	
第15週	まとめ	講義全般についての討論	

\* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.  
(達成) (達成) (達成) (達成) (達成)